

6.3 生態系の人為的な攪乱状況（国外外来種の分布状況）

近年、貨物や農作物に紛れ込んだ種や輸入ペット昆虫などが野外へ逃亡あるいは放逐されることにより、外来生物に代表されるように、本来の生息地域以外での分布拡散が顕著に認められるようになりました。このような人の活動に伴う生物の移動と再野生化により、生態的に優勢な国外外来種によって在来種の減少や絶滅が起っています。また、外国産クワガタムシなどの例のように、自然界では起こらない異種間交雑によって雑種が形成され、地域固有な遺伝子の攪乱が懸念されています。

ここでは、生態系の人為的な攪乱状況を明らかにするために、国外外来種や、それらと生態的に競合する在来種の確認状況について整理しました。

【アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチ、セイヨウオオマルハナバチの確認状況】（陸上昆虫類等調査）

● アワダチソウグンバイを初めて確認

国外外来種の定着状況について見るため、アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、シバツトガ、アメリカミズアブ、ミスジキイロテントウ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、アメリカジガバチ、セイヨウオオマルハナバチの11種を取り上げました。

近年侵入が記録されたアワダチソウグンバイは、今回とりまとめを行った16河川のうち、関東地方から四国地方にかけての12河川で確認されました。前回調査以前は確認されていないことから、近年、急速に分布を拡大している状況が明らかとなりました。

セイヨウオオマルハナバチは北海道地方の渚滑川から初めて確認されました。

その他アメリカミズアブやラミーカミキリなど古くから侵入が知られている国外外来種については、確認河川数はほぼ横這いで、比較的多くの河川から記録されています。

（資料掲載：6-23～6-33、6-48～6-49 ページ）

中国大陸原産のアオマツムシは、1898年に東京で見つかった以来、各地に広がっており、秋の夜に植木や街路樹の上からリィーリィーリィーと鳴く声が聞こえます。調査結果からは、近年も拡大を続けている様子が見えます。

アワダチソウグンバイは中南米原産で、1999年に兵庫県で発見されて以来、関西地方を中心にキク、ヒマワリ、サツマイモなどの作物やセイタカアワダチソウなどのキク科雑草から確認されています。今後は河川敷や農地を中心に分布域を拡大する可能性が考えられます。

ミスジキイロテントウは、国内では1985年に沖縄本島で発見されたのが最初で、それ以降、本州などでも見つかっています。東南アジアから芝により持ち込まれたと言われてい

ます。ラミーカミキリは、明治初期に中国大陸から輸入された麻植物について移入したと考えられており、成虫はラミー、カラムシ、ムクゲなどの葉や茎を食べます。

ブタクサハムシは北米産の種ですが、1996年に千葉県で発見されて以降、ほぼ全国で確認されています。同じく国外外来種であるブタクサやオオブタクサを食草としており、これらの植物の分布拡大とともに、分布を拡大していく傾向が見えます。

確認河川数の比較 (対象河川: 16 河川)

種 類	1 巡目	2 巡目	3 巡目	4 巡目
アオマツムシ	2 河川	10 河川	13 河川	13 河川
アワダチソウゲンバイ	0 河川	0 河川	0 河川	12 河川
シバツトガ	3 河川	7 河川	11 河川	9 河川
アメリカミズアブ	2 河川	9 河川	11 河川	9 河川
ミスジキイロテントウ	0 河川	2 河川	6 河川	5 河川
ラミーカミキリ	0 河川	5 河川	5 河川	7 河川
ブタクサハムシ	0 河川	0 河川	9 河川	9 河川
イネミズゾウムシ	3 河川	8 河川	9 河川	7 河川
シバオサゾウムシ	0 河川	1 河川	1 河川	2 河川
アメリカジガバチ	3 河川	6 河川	10 河川	7 河川
セイヨウオオマルハナバチ	0 河川	0 河川	1 河川	1 河川

確認地区数の比較 (対象河川: 16 河川)

種 類	1 巡目 (32 地区)	2 巡目 (85 地区)	3 巡目 (99 地区)	4 巡目 (72 地区)
アオマツムシ	2 地区 〔6. 3〕	19 地区 〔22. 4〕	34 地区 〔34. 3〕	48 地区 〔66. 7〕
アワダチソウゲンバイ	0 地区 〔0〕	0 地区 〔0〕	0 地区 〔0〕	49 地区 〔68. 1〕
シバツトガ	4 地区 〔12. 5〕	16 地区 〔18. 8〕	41 地区 〔41. 4〕	26 地区 〔36. 1〕
アメリカミズアブ	7 地区 〔21. 9〕	16 地区 〔18. 8〕	21 地区 〔21. 2〕	21 地区 〔29. 2〕
ミスジキイロテントウ	0 地区 〔0〕	2 地区 〔2. 4〕	10 地区 〔10. 1〕	6 地区 〔8. 3〕
ラミーカミキリ	0 地区 〔0〕	8 地区 〔9. 4〕	11 地区 〔11. 1〕	12 地区 〔16. 7〕
ブタクサハムシ	0 地区 〔0〕	0 地区 〔0〕	29 地区 〔29. 3〕	31 地区 〔43. 1〕
イネミズゾウムシ	20 地区 〔62. 5〕	33 地区 〔38. 8〕	19 地区 〔19. 2〕	14 地区 〔19. 4〕
シバオサゾウムシ	0 地区 〔0〕	1 地区 〔1. 2〕	1 地区 〔1. 0〕	3 地区 〔4. 2〕
アメリカジガバチ	3 地区 〔9. 4〕	10 地区 〔11. 8〕	15 地区 〔15. 2〕	10 地区 〔13. 9〕
セイヨウオオマルハナバチ	0 地区 〔0〕	0 地区 〔0〕	1 地区 〔1. 0〕	3 地区 〔4. 2〕

() 内の数字は、各巡目で対象とした調査地区

[] 内の数字は確認河川数の調査対象河川数に対する%

イネミズゾウムシは北米原産で、1975年に愛知県で発見されて以降、1986年には日本全国に分布が広がったと言われていています。イネの害虫として知られていますが、イネ以外にもイヌビエ、ムツオレグサ、チゴザサ、マコモ、サヤヌカグサ、ホタルイ、オモダカなどを食草としています。今回の調査では、7河川から確認されています。

シバオサゾウムシは北米原産で、芝の害虫として知られ、ゴルフ場などを通じて各地に広がっています。今回の調査では、2河川で確認されました。

シバツトガは北米原産で、1964年に兵庫県のゴルフ場で芝の輸入とともに侵入したとされ、以後各地のゴルフ場などへ急速に広がっています。今回の調査では、9河川から確認されています。

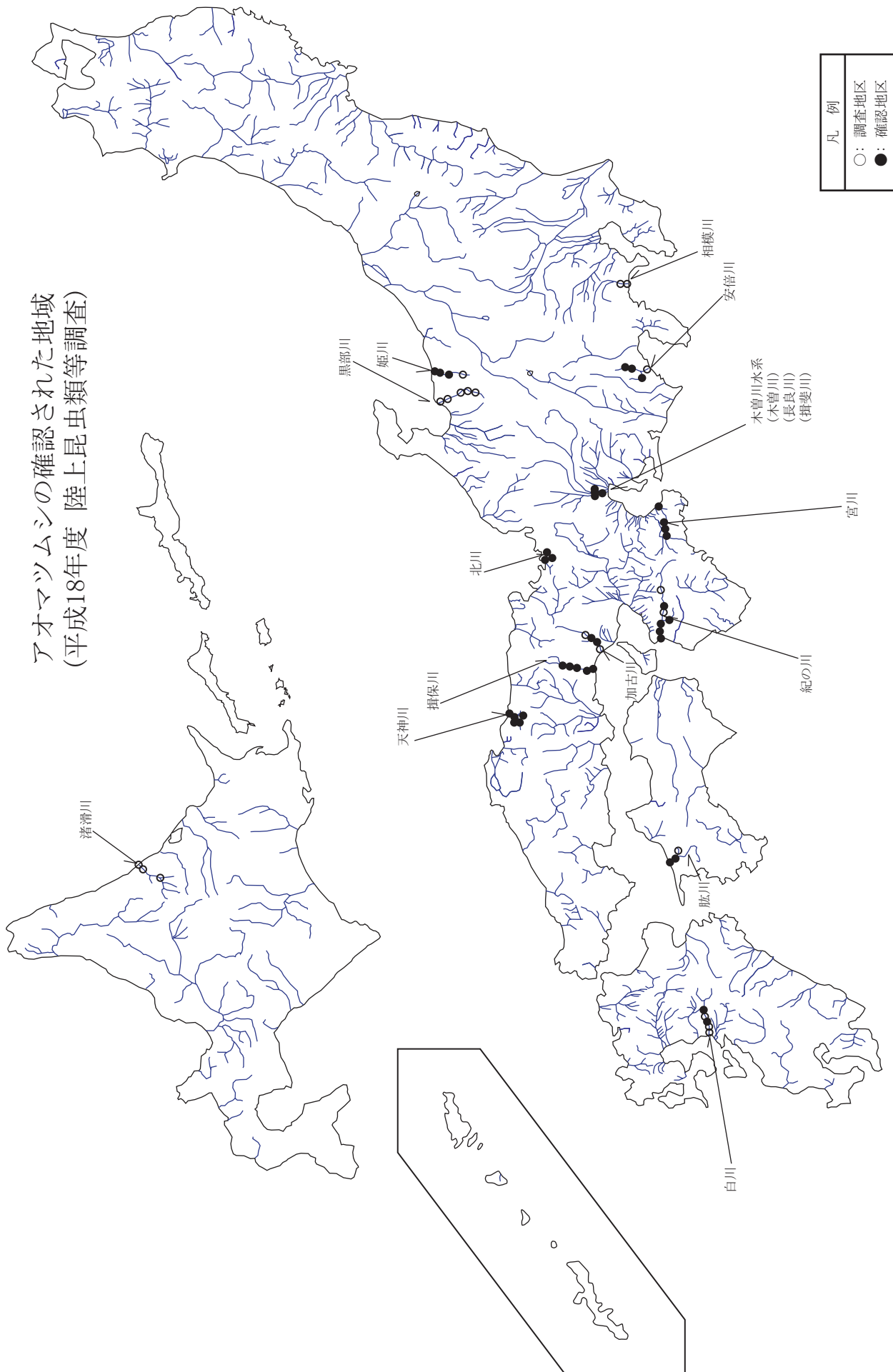
アメリカミズアブは、体長1~2cmの北米原産の種で、1950年頃東京で初めて発見されて以降、近年では夏から秋にかけて、各地で普通に見られるようになりました。市街地から山地まで普通に生息し、畑の脇に捨てられた野菜のくずや生ゴミなどにもよく発生します。

アメリカジガバチは北米原産で、1945年頃東京で初めて発見されました。泥で筒状の巣を造り、クモ類を狩ります。今回の調査では、7河川から確認されています。

セイヨウオオマルハナバチは、ヨーロッパ原産のハチ目ミツバチ科に属する種で、体長10~20mmほどの昆虫です。本種は、在来マルハナバチとの餌や営巣場所をめぐる競合や、頻繁な盗蜜行動による野生植物の種子生産の阻害などにより、生態系に被害を及ぼすおそれがあることから、特定外来生物に指定されました。

以上の多くの外来昆虫で、確認河川数及び確認地区数は増加あるいは安定傾向がみられ、河川環境のなかで確実に定着している種が多いと考えられます。

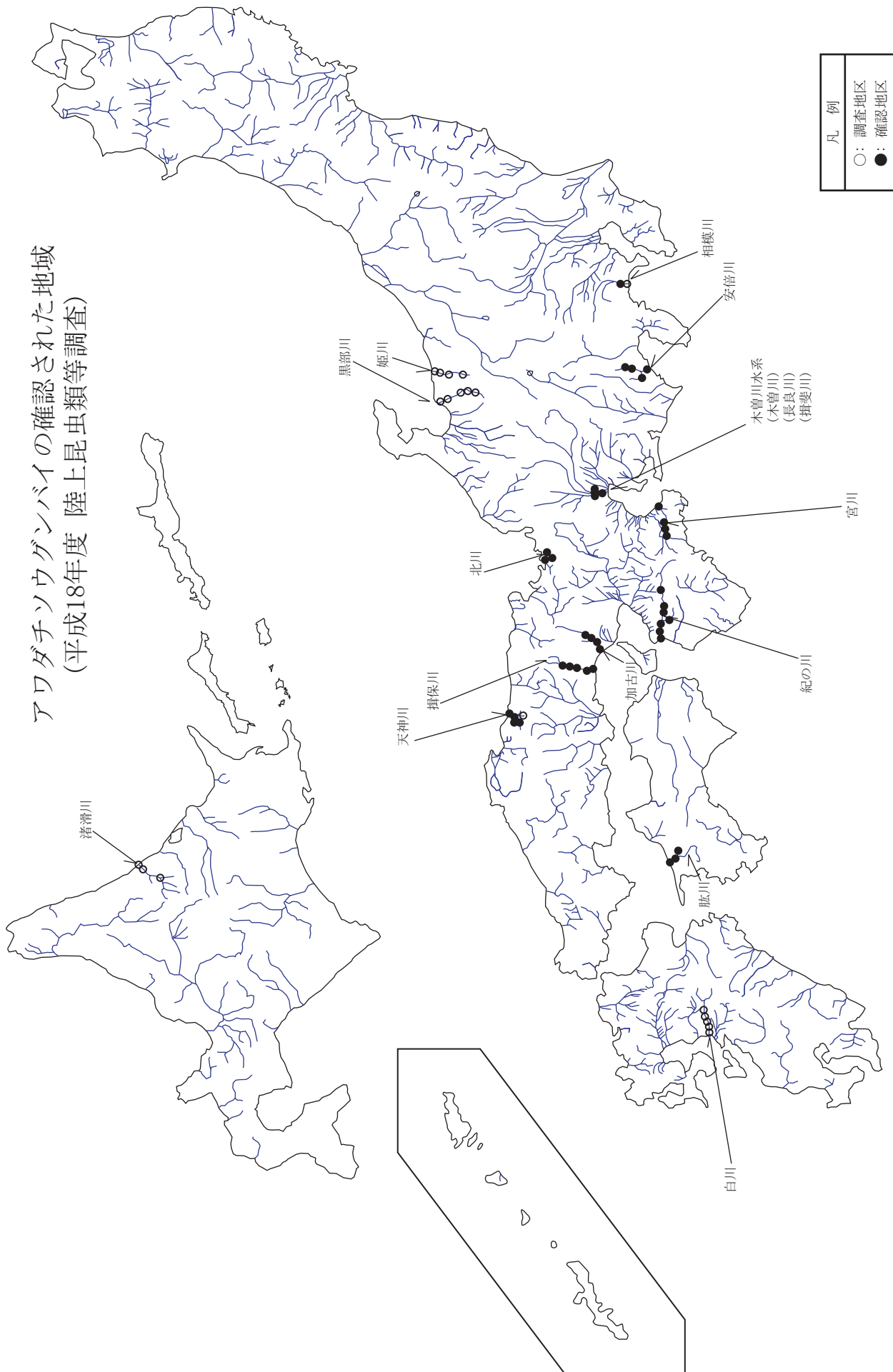
アオマツムシの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地区
●	確認地区

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。

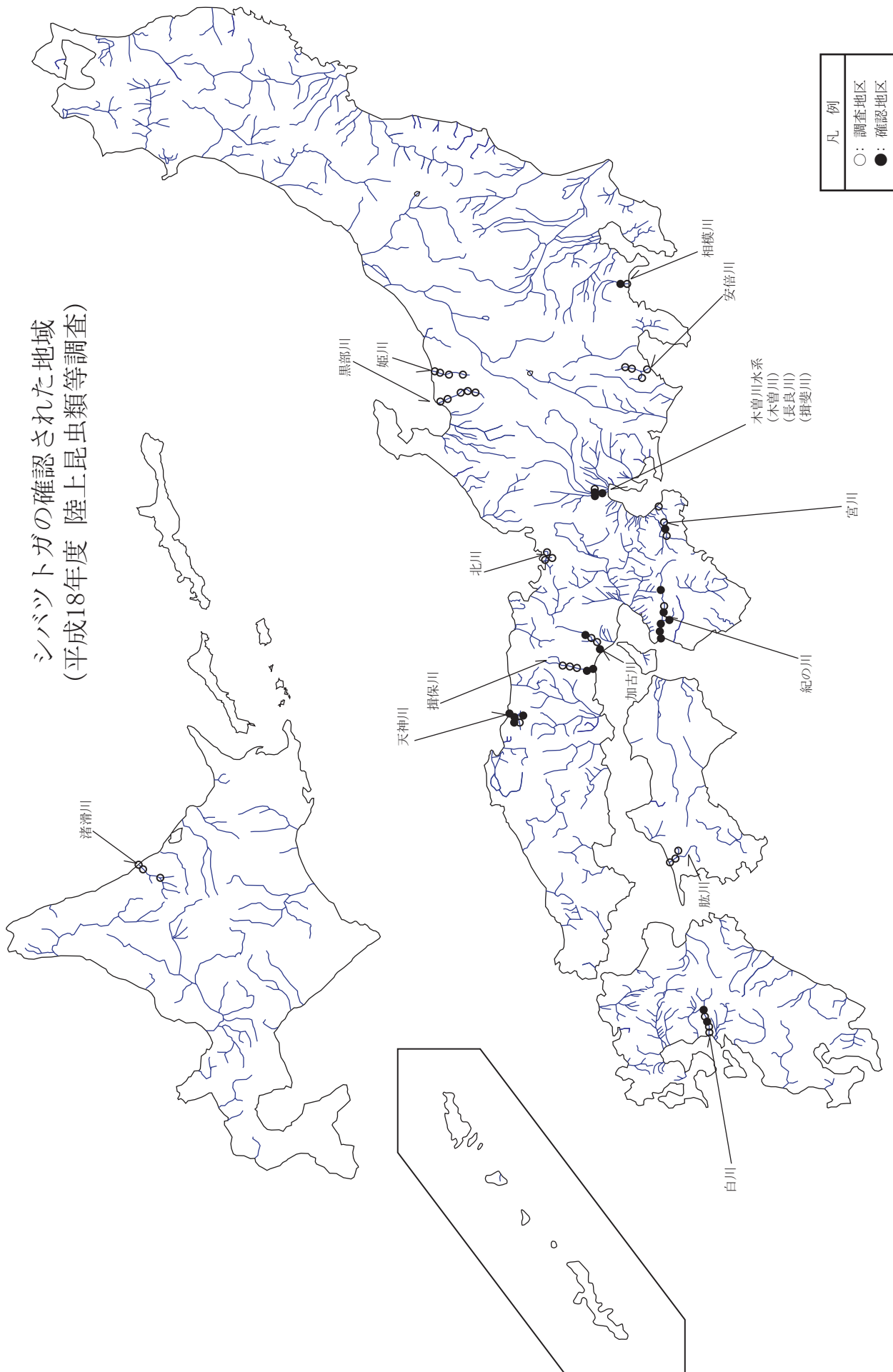
アワダチソウグンバイの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地区
●	確認地区

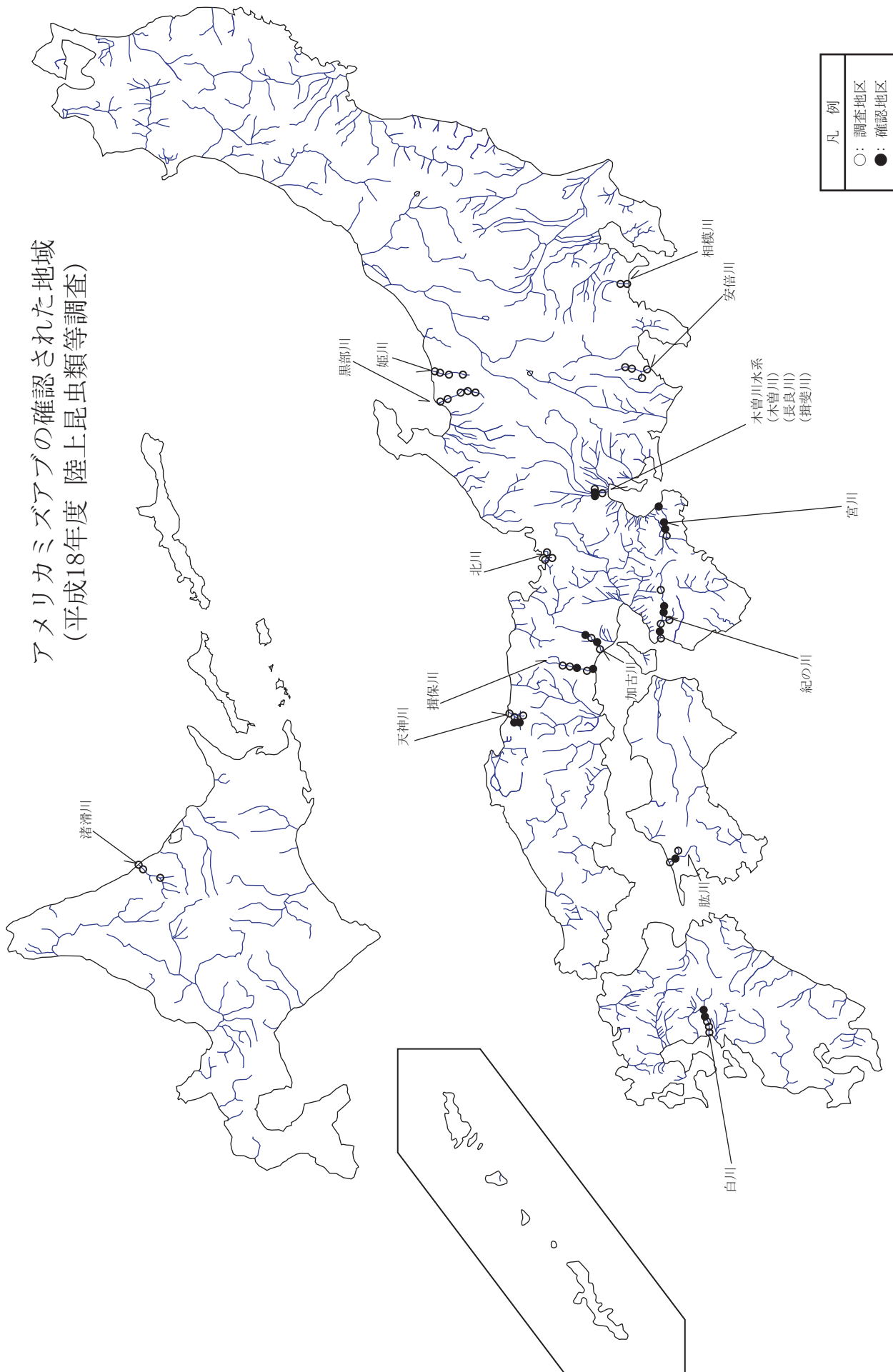
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。

シバツトガの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりとめている。

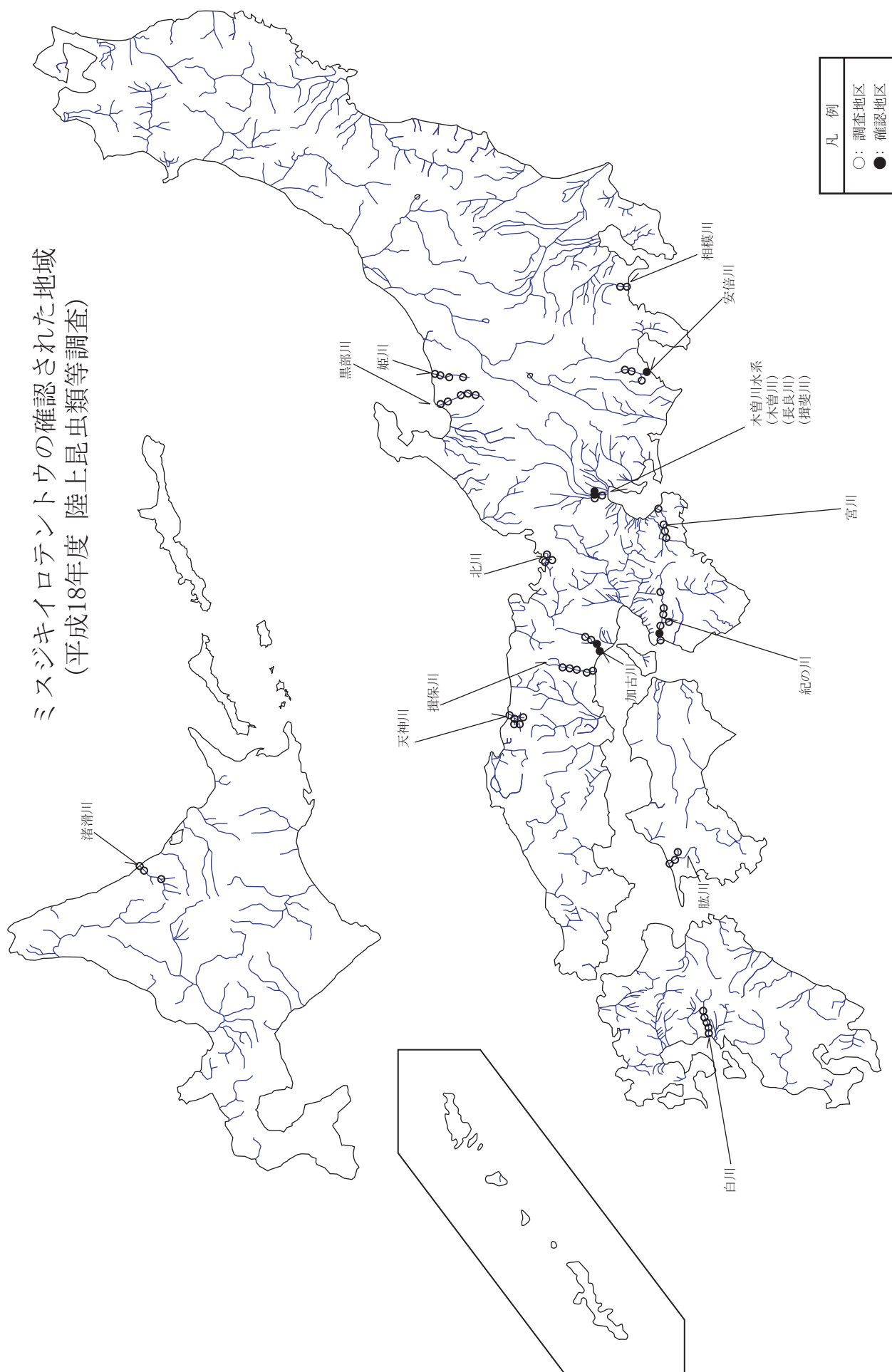
アメリカミズアブの確認された地域 (平成18年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地区
●	確認地区

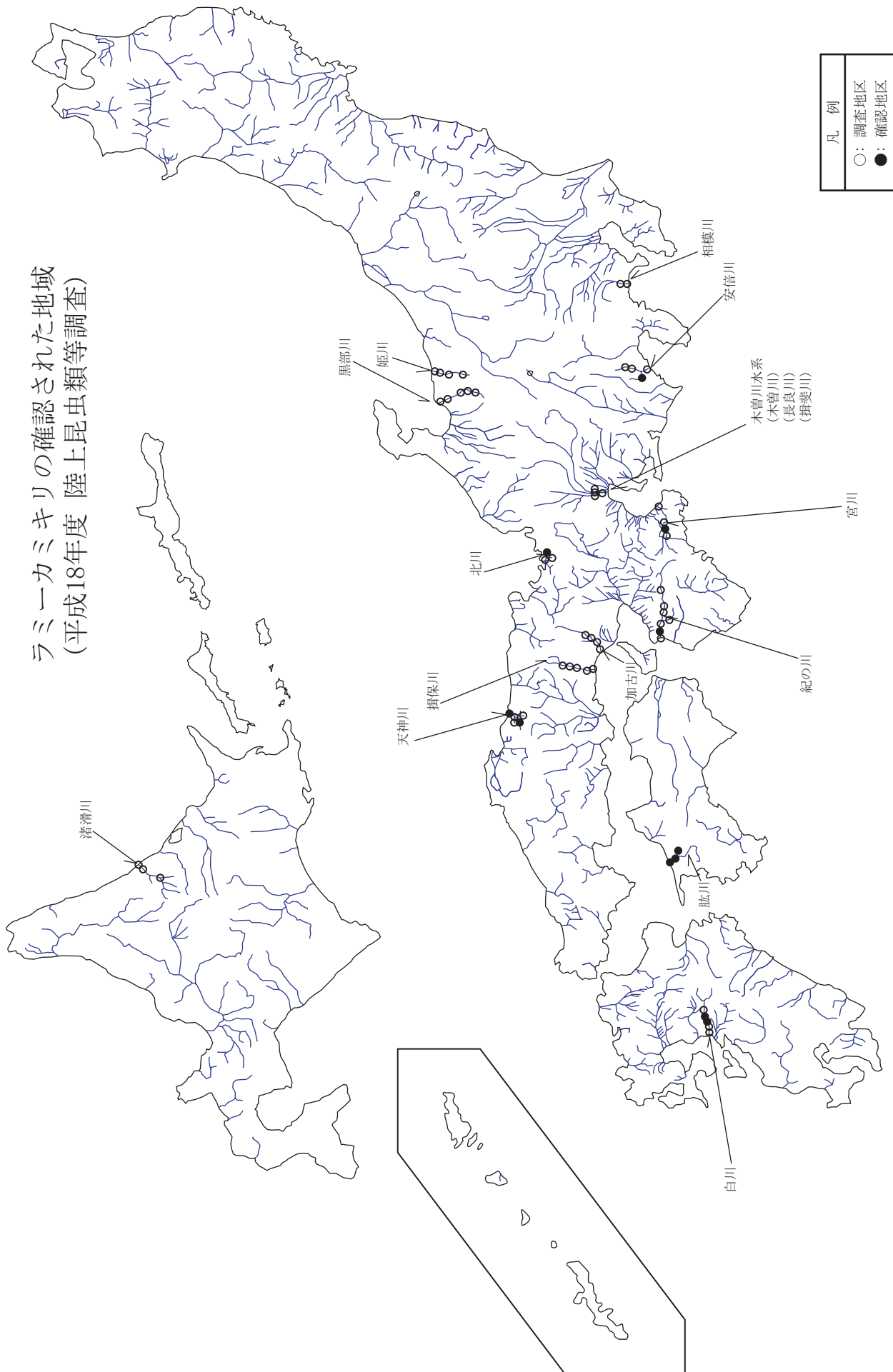
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 ○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
 木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。

ミスジキイロテントウの確認された地域 (平成18年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 ○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
 木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。

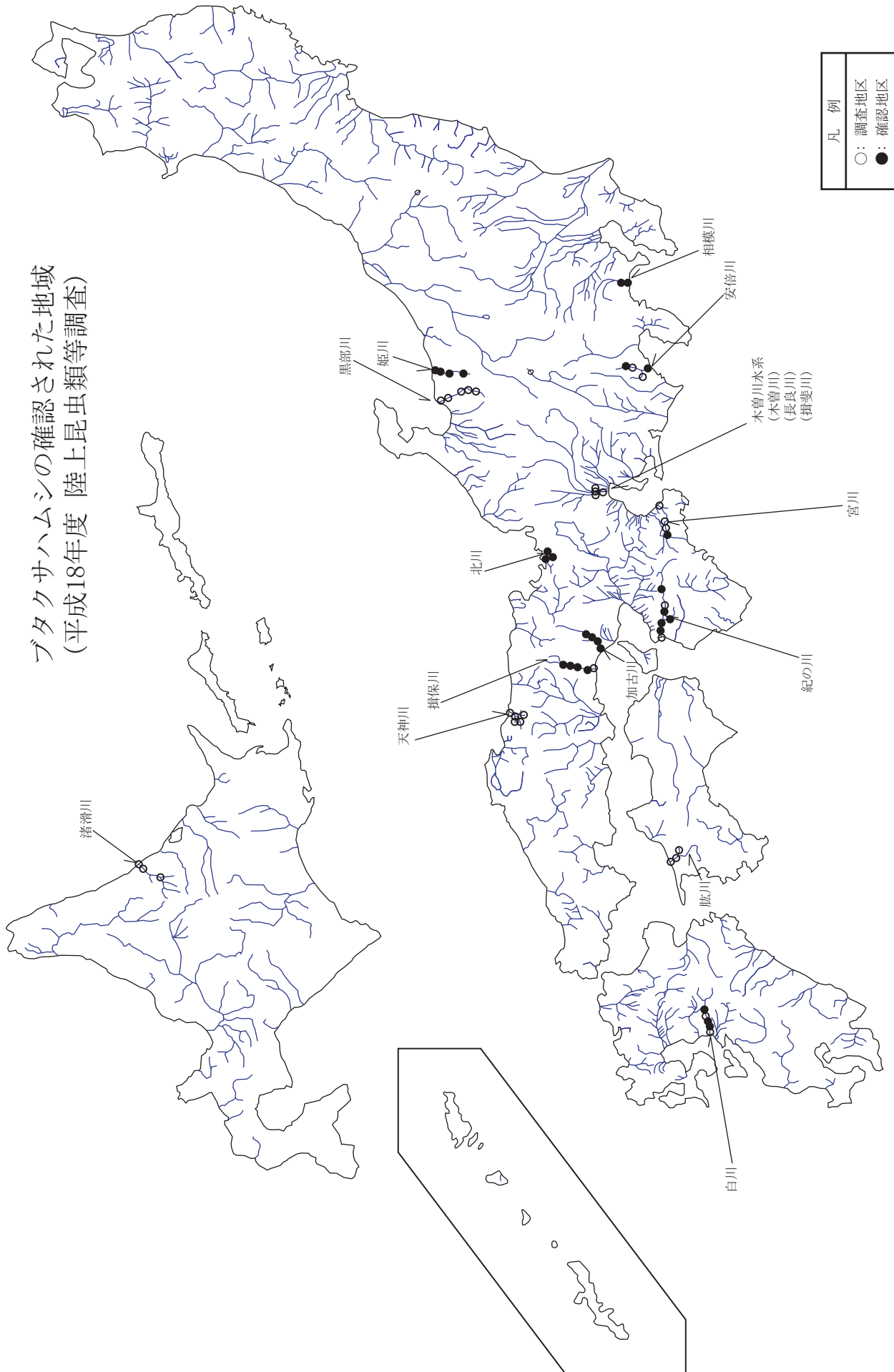
ラミーカーミキリの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地区
●	確認地区

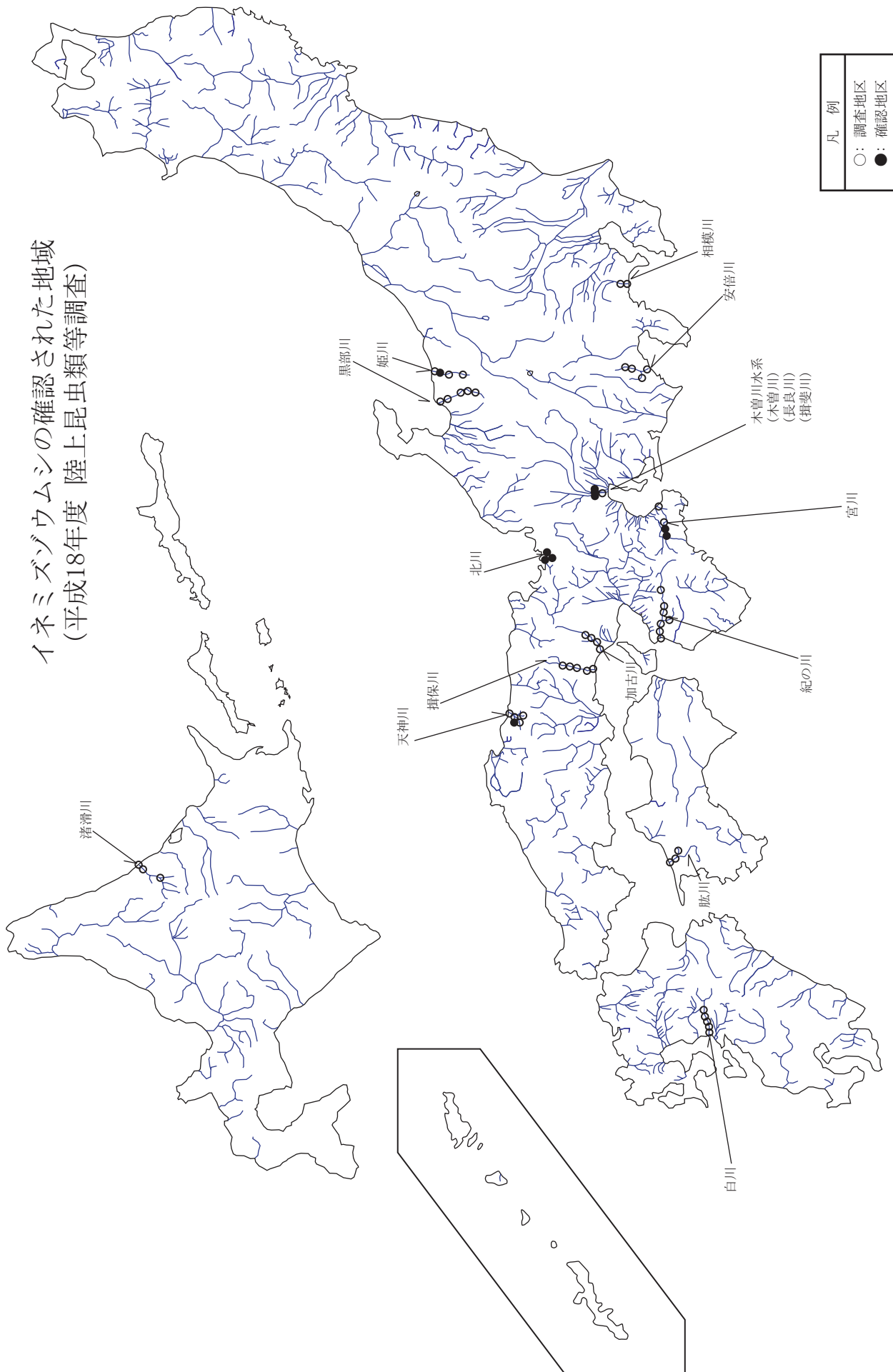
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 ○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
 木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。

ブタクサハムシの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



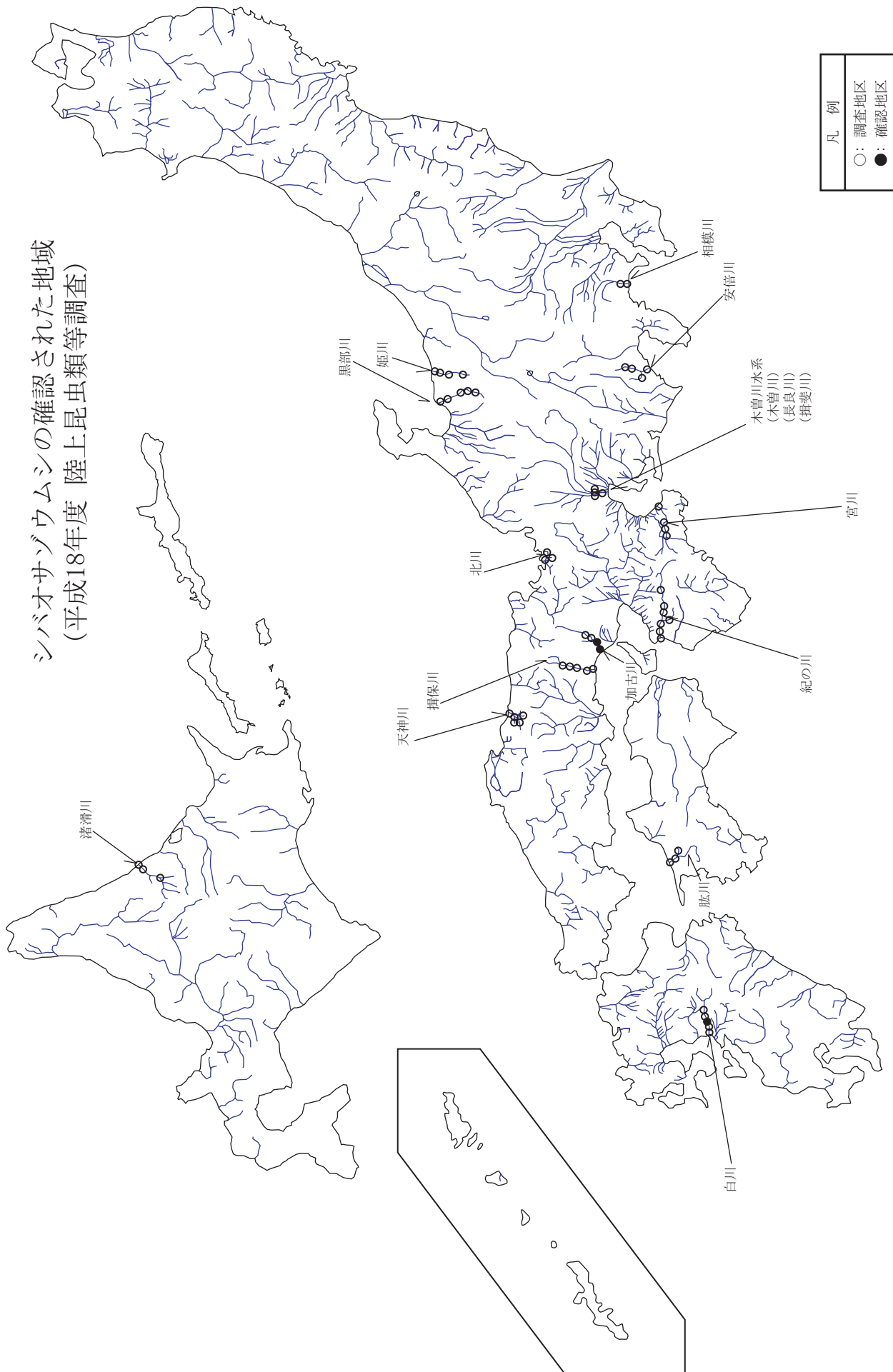
注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりとめている。

イネミズゾウムシの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりとめている。

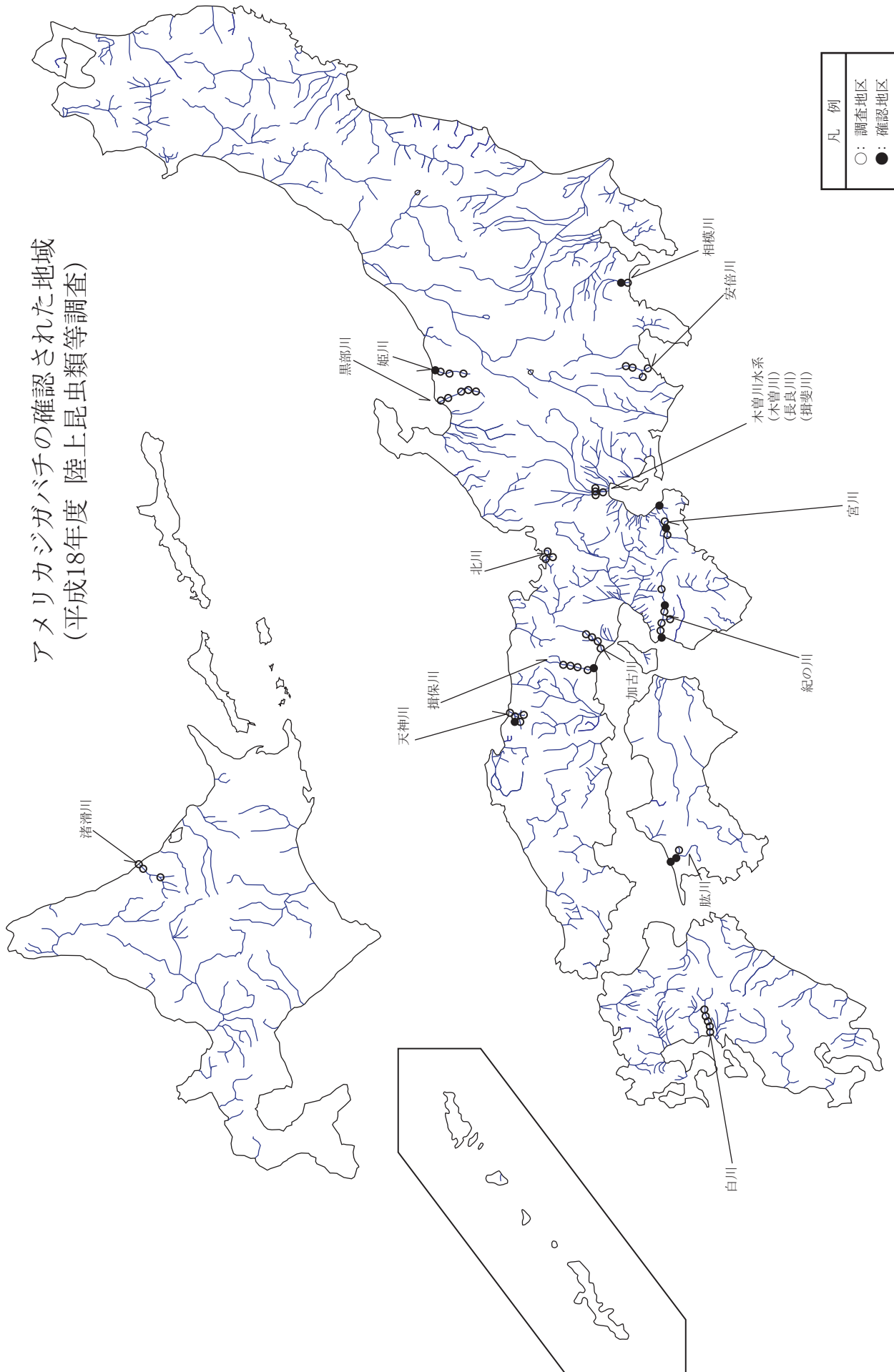
シバオサゾウムシの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地区
●	確認地区

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。

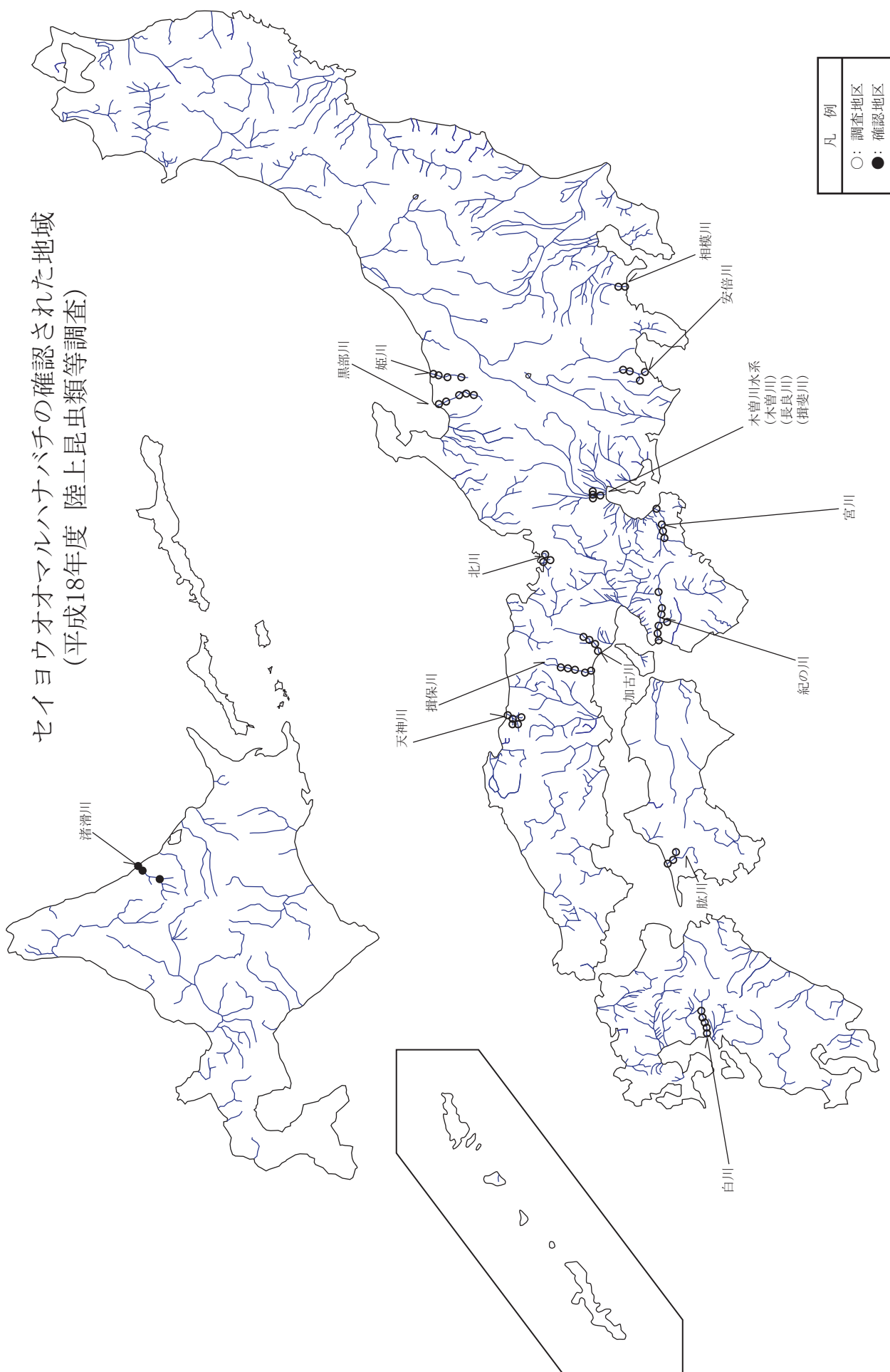
アメリカジガバチの確認された地域
(平成18年度 陸上昆虫類等調査)



凡 例	
○	調査地区
●	確認地区

注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。

セイヨオオマルハナバチの確認された地域 (平成18年度 陸上昆虫類等調査)



注) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。
 ○印の中に複数の調査地区が含まれることがある。
 木曾川水系については下流側事務所の夏季と秋季のデータをとりまとめている。